

平成 21 年度中国四川高校生訪日団が来日

東京、秋田、青森の高校生と交流

平成 21 年度中国四川高校生訪日団（総団長・李卓明 四川省教育庁 副庁長）が、8 月 22 日から 30 日まで来日した。同団は、2008 年 5 月に発生した四川大地震の被災地から選抜された 99 名で構成され、08 年 2 回の訪日に続き 3 回目の招聘となる。

一行は、東京都において学校交流に参加したほか、青森県、秋田県において日本の学校生活を体験し、夜は合宿交流プログラムを通じて日本の高校生との友情を育んだ。

東京では、まず中華人民共和国駐日本国大使館を表敬訪問し、孫建明 公使参事官から歓迎の辞が述べられた。24 日は外務省表敬訪問、セミナー、歓迎レセプションに出席。外務省表敬では井川原賢 アジア大洋州局中国・モンゴル課日中経済室 首席事務官が会見し、四川大地震の被災地から来日した団員に慰問の意を表するとともに、「長期にわたる安定した日中関係を構築するために、その基礎となるのは未来を担う青少年間の相互理解と相互信頼である。学校交流や合宿など同世代との交流を通じて、互いにありのままの姿を理解してほしい」と団員への期待を示した。同日、王敏 法政大学国際日本学研究所教授を講師に迎え、「若者の日中・蜀花・蜀道・蜀魂」をテーマとした日中関係セミナーを受講。王氏は漫画や食文化など身近な題材を切り口に日本の文化や風俗習慣を紹介し、今後の日中関係においては両国の文化を比較して違いを知ることが重要と強調した。

夕刻に行われた歓迎レセプションには、小原雅博 外務省アジア大洋州局審議官、孫建明 中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官らが出席。ミス日本グランプリの宮田麻里乃さんとミス日本ミス着物の松本蘭さんが特別ゲストとして登場し、艶やかな着物姿とバイオリン演奏で団員を激励した。また、阪神・淡路大震災の被災地となった兵庫県三木市の高校生代表も会場に駆けつけ、寄せ書きと千羽鶴、募金を贈呈すると、李卓明総団長は訪日団を代表して「日本の皆様方のご芳志を被災地復興のために有効活用させて頂きたい」と謝辞を述べた。



四川の高校生がチャン族の踊りを披露
(歓迎レセプション)



小原雅博外務省アジア大洋州局審議官が挨拶
(歓迎レセプション)

このほか都内では、品川清掃工場や中央防波堤埋立処分場などの環境施設を見学。廃棄物の減量と再資源化、分別収集など日本人の環境問題に対する意識の高さに感心し、説明を聞きながら熱心にメモをとる姿が見られた。

都内で日本の学校生活を体験

一行は、日本滞在中、東京都で1回、地方で1回の計2回、学校交流プログラムに参加した。東京都の受け入れ校は4校で、いずれも夏季休暇中のため、部活動参加や校内見学を中心に、日本の学校生活を体験。親しくなった日本の高校生に、「勉強と部活動の両立をどのように図っていますか」などと質問し、日本の高校生が勉強だけではなく行事や部活動などの課外活動にも意欲的に取り組んでいる様子を見て、大いに刺激を受けたようだった。

都立杉並総合高校で和太鼓部に参加した団員は、同部の生徒に教わりながら簡単なリズム打ちに挑戦。「和太鼓の練習は、仲間と音を合わせるための協調性や集中力を鍛えることができる。姿勢や所作の美しさなど日本文化に学ぶべき点が多い」と感想を述べ、短時間ではあったが日本の文化や習慣について身をもって学習することができた。ほかにも茶道・華道体験や工業高校の特色を生かしたものづくり体験、吹奏楽部による歓迎演奏を用意した学校もあり、人気を博していた。

訪日団にとって初めての直接交流の場であったため、始めは緊張した表情だったが、言葉が分からなくても英語やジェスチャーでなんとか伝えようと頑張っている姿があちこちで見られた。帰り際には仲良くなった生徒と一緒に記念撮影をしたり、お土産や心連心サイトの説明書を渡したり、メールアドレスを交換したりと、それぞれが楽しく有意義な時間を過ごし、日本高校生との別れを惜しんだ。

各訪問地で合宿交流

26日からは2コースに分かれ、第1分団は秋田県、第2分団は青森県へ。

学校交流を行ったのは、東京都4校のほか、秋田県1校、青森県3校の計8校で、秋田と青森の両県では学校訪問後、合宿所にて交流プログラムを展開。各訪問校の生徒と寝食を共にした。

秋田コースは、夕食後、日中双方が歌や踊りなどの出し物を披露。続いて日本高校生がヤートセを、中国高校生がチャン族の踊りを互いに教え合い、会場は熱気と一体感で包まれた。その後、日中高校生は、寝具を各自の部屋へ運び入れたり、布団を敷いたり、部屋ごとに行動をともにしながら互いの交流を深めた。

青森コースは、訪問校別に日中混合のチームに分かれ、学校対抗クイズ大会を実施。日中に関する二者択一問題に挑み、正解が発表されるたびに拍手と歓声が湧き上がって大いに盛り上がりを見せた。後半は、太鼓の音の数だけ人数を集めてグループをつくるゲームや、全員で一つの大きな輪をつくり、音楽に合わせて体を使うレクリエーションに汗を流した。多くの中国高校生がリラックスして交流を楽しみ、こんなに無我夢中で楽しんだのは本当に久しぶりだと語る団員もいた。

両コースとも翌朝は日中の高校生と一緒に朝食をとり、バスに乗り込んでお別れとなった。両コースとも、双方いつまでも手を振り、別れを惜しんでいた。



チャグチャグ馬子作り体験（岩手県）



合宿所にて学校対抗クイズ大会で交流（青森県）

地方滞在中は厳しい暑さも和らぎ、青森コースは奥入瀬溪流や十和田湖などの自然景勝地や三内丸山遺跡を参観し、また、金魚ねぶたの絵付けやねぶた運行を体験。一方、岩手を経由した秋田コースは小岩井農場まきば園参観やチャグチャグ馬子作り体験の後、秋田入りして角館武家屋敷通りを参観するほか、竿灯演技を体験するなど、両コースとも土地の歴史と風土が育てた伝統文化を身近に体験し、理解する良い機会となった。

一行は29日に成田で合流。歓送報告会には、北京から駆けつけた劉宝利 中国教育部国際合作与交流司副司長も出席し、生徒代表より訪日の成果と今後の抱負が語られた。最後に、訪日団全員が「感恩的心（感謝の心）」を手話付きで熱唱。外務省をはじめとする日本側受け入れ機関に対して感謝の意を表し、プログラムの最後を締めくくった。

懸念されていた新型インフルエンザ流行による影響もなく、訪日団は全日程を無事終了し、8月30日に成田空港より帰国の途に着いた。本事業の実施にご協力いただいた外務省、文部科学省、中国大使館、各都県教育委員会と受入関係機関、学校関係者の皆様に厚く御礼申し上げたい。

（総合交流部）

中国高校生感想

日本の印象は？

- ・日本のように経済発展を遂げた先進国は深刻な環境問題を抱えているに違いないと思っていたので、日本の美しい自然を目の当たりにし、日本人の環境問題に対する意識の高さを感じました。

学校訪問・交流の感想

- ・東京都立国分寺高校で日本の伝統文化である茶道と華道を体験し、日本人の礼儀作法や風俗習慣を学びました。教えてくださった日本の高校生の一举一動には礼節と教養が感じられました。このような貴重な体験ができて大変嬉しく思います。
- ・秋田明桜高校に到着したとき、日本の高校生達は私達の名前を大きく書いた紙を両手に掲げて温かく歓迎してくれました。とても嬉しかったです。
- ・日本の高校生は私のために椅子を運んでくれたり、かばんを持ってくれたり、とても気にかけて親切にしてくれました。私達は話す言葉は違うけれど、一緒に笑ったり踊ったりして楽しい時間を過ごしました。
- ・柔道部や野球部、サッカー部などの部活動を参観しました。日本の学校は文武両道を実践しており、私達の国とはちがひ、学業だけでなくスポーツや文化活動などの課外活動にも力を入れているところが印象的です。

合宿交流の感想

- ・合宿所では日本の高校生と一緒に歌ったり踊ったりして、とても楽しかったです。寝る前は、お互いの言葉を教え合うなどして有意義な時間を過ごしました。
- ・日本の高校生は布団を運ぶのを手伝ってくれたり、敷き方を教えてくれるなど、私達にとっても親切でフレンドリーに接してくれました。機会があればまたこのような交流プログラムに参加したいと思います。
- ・合宿所の体育館で全員が手を繋ぎ、輪になってゲームをしました。みんなとても楽しそうで、笑顔は国境を超えるということを実感しました。

日本高校生感想

- ・訪日団の方々とは英語で話をしました。簡単な中国語や手話つきの歌を教えることが出来ました。和気藹々とした雰囲気の中で、とても楽しく、充実した時間を送ることができて、本当によい経験をする事ができたと思います。

この学校交流を通して、中国語や中国の文化に興味を持つことができました。

- 茶道部のお茶席では、中国の子が発表してくれた感想がとてもしっかりした内容で驚きました。みんなで写真を撮ろうかという提案があった時の積極性も印象的でした。この日の体験を通して感じたのは、中国のエリート学生の優秀さと、言葉の重要さです。外国語でコミュニケーションをとる勉強をしなければならぬということを痛感しました。
- この交流会を通して気づいたことがあります。それは、どんなに言葉が通じにくい環境でも、お互いに友好関係を築こうとする意識があればいくらかでも交流は可能だということでした。一生懸命伝えようとし、またそれを必死に理解しようとすることで、時間はかかってもわかり合うことができました。半日はあっという間に終わってしまい、その時間は心から楽しいものでした。これからも交流を続けてよりよい関係を深めていけることを願っています。
- 私は和太鼓の演奏をし、中国の高校生にも体験してもらうため、法被を着せたらとても喜んでくれました。その時の笑顔はとても印象的でした。そういうこともあってか、そのあとの会話はとてもスムーズにできました。このような行事に参加することができてとても良い経験になりました。
- 中国の方はとても積極的で、言葉は不要なぐらいのスキンシップとジェスチャーで会話をしていました。この合宿を終えて一番強く思ったことは、想像だけで異国の人をある一定の姿に決めつけてはいけないということです。中国の人は私の想像とは全然違う陽気な人達で、すごくフレンドリーな人達でした。
- 初めは緊張して何もできなかったものの、次第に打ち解けるようになり学ぶことが多かったです。しかし、「言葉の壁」は厚く、高校一年生の英語力では伝えたいけど伝わらないという場面が多々あり、もどかしい思いを幾度もしました。その反面、次にこのような機会があれば同じ思いはしないように、と英語に対する学習意欲もわきました。全ての活動を通して、苦労したことは多かったものの、お互いを思いやる気持ちや、理解し、楽しもうという意思があるだけで、国境を越えた交流ができることに驚き、嬉しく思います。
- 生まれて初めて中国の人達と交流したが、とても純粋ですごく親しみやすかった。一緒に日本の昔の遊びをしたが、中国の人達は一生懸命その遊びに挑

戦してくれて、僕もその姿を見てついつい遊びに熱中してしまった。逆に日本の遊びの面白さというものを学ばされてしまった気がする。このような機会に巡りあえて本当によかったと思った。

- ・私は浴衣の着付けを担当しました。人に着付けをしてあげるのは初めてでも心配でしたが、着てくれたみんなが嬉しそうに「ありがとう」と言ってくれたのがすごく嬉しかったです。華道や綿あめなど日本の文化が気に入ってくれたみたいだったので、今回の交流は成功したと思います。この交流で深めた絆を今後の友好関係につなげていきたいです。
- ・中国の方たちは1日14時間勉強すると伺い、すごいと思いました。それが今の中国の経済の発展に深くつながっているのだと思います。華道のやり方を教える際に英語で伝えることができるとても嬉しかったです。私がしたことがいろいろな方に喜んでもらえてよかったです。
- ・2008年5月12日に起こった四川大地震を経験した彼女たちは地震について様々なことを話してくれました。また、8月11日に静岡で起きた東海地震について私が話をしている時、本当に真剣に話を聞いてくれて、静岡に3年前まで住んでいて、友達が静岡にいると教えたら、本気で私の友達について心配してくれました。全員無事だという旨を伝えた瞬間、本当に良かったと安心した様子がとてもよく分かりました。初めて会って半日しか経っていないのに親身になって考えてくれて、国や話す言葉は違っても心は通じるということに改めて実感することができました、これからも今回交流した中国四川高校生と交流を続けていきたいと思っています。
- ・私達の交流のスタートはお茶会だった。本番は練習の時の段取り通りにはいかず、臨機応変な態度が必要とされ、内心どうなるか不安だった。しかしお茶を出した時、「ありがとう」と日本語で話しかけてくれた高校生の子がいた。簡単な言葉だが、その言葉は不安を取り除いてくれた大切な一言だった。合宿所での交流会では、積極的に英語で話しかけた。発音などが多少日本と異なっていたが、お互いの好きなこと、家族のことや、歌についてなど様々なことを話せた。話の中には、大学受験への不安や将来の夢についてのこともあった。国は違うけれども、同じ17歳、18歳の学生で同じようなことを考えていることに言葉では言い表せない不思議な気持ちになった。
- ・今回の合宿では、英語力が少し上がったような気がしました。また、「ドラえ

もん」などの日本の漫画やアニメ、ドラマが中国でも人気があることなどを
知ることができました。今回知りあうことができた中国のみんなと「心連心」
というコミュニティサイトを通じてこれからも交流を深めていきたいと思
います。

- 生徒の一人から、四川大地震の時に日本からのボランティアが、復興の手伝
いに来てくれた話や募金がとても役に立ったことを聞きました。たとえ違う
国でも、互いに協力し助け合うことの大切さを実感しました。

平成21年度中国四川高校生訪日団活動内容

東京・秋田コース 生徒(男子21、女子22 計43名) 引率者(7名)

日	曜日	時間	予定
8/22	土	午後	成田空港着
		夜	オリエンテーション
8/23	日	午前	浅草参観
		午後	日本科学未来館、エプソン品川アクアスタジアム参観
8/24	月	午前	都内参観(皇居、東京タワー)
			外務省表敬訪問
		午後	日中セミナー「若者の日中-蜀花・蜀道・蜀魂」 講師 王 敏 氏 (法政大学国際日本学研究所教授)
		夜	歓迎レセプション
8/25	火	午前	環境学習(品川清掃工場参観)
		午後	学校交流(都立国分寺高校、都立田無工業高校)
8/26	水	午前	岩手へ移動
		午後	体験学習(チャグチャグ馬子作り) 小岩井農場まきば園参観、秋田へ移動
8/27	木	午前	田沢湖、角館武家屋敷通り参観
		午後	横手市ふれあいセンターかまくら館、ポートタワーセリオン参観
8/28	金	午前	秋田市民俗芸能伝承館参観(竿燈演技体験)
		午後	明桜高校で学校交流 明桜高校と合宿交流
8/29	土	午前	桂浜海水浴場、商業施設参観
		午後	東京へ移動
		夜	歓送報告会
8/30	日	午前	成田空港発

東京・青森コース 生徒(男子20、女子23 計43名) 引率者(6名)

日	曜日	時間	予定
8/22	土	午後	成田空港着
		夜	オリエンテーション
8/23	日	午前	浅草参観
		午後	日本科学未来館、エプソン品川アクアスタジアム参観
8/24	月	午前	都内参観(皇居、東京タワー)
			外務省表敬訪問
		午後	日中セミナー「若者の日中-蜀花・蜀道・蜀魂」 講師 王 敏 氏 (法政大学国際日本学研究所教授)

		夜	歓迎レセプション
8/25	火	午前	環境学習(中央防波堤埋立処分場参観)
		午後	学校交流(都立小石川中等教育学校、都立杉並総合高校)
8/26	水	午前	青森へ移動
			奥入瀬溪流参観
8/27	木	午前	十和田湖展望、体験学習(金魚ねぶた絵付け)
		午後	青森自然公園ねぶたの里(ねぶた運行体験)、青森観光物産館アスパム参観
8/28	金	午前	三内丸山遺跡参観
		午後	県立青森東高校、県立青森南高校、青森山田高校で学校交流 県立青森東高校、県立青森南高校、青森山田高校と合宿交流
8/29	土	午前	合浦公園海水浴場、商業施設参観
		午後	東京へ移動
		夜	歓送报告会
8/30	日	午前	成田空港発